



もうすぐ夏休みだ!  
夏休みには、楽しいことがいっぱいあるね。としよ丸は、花火が楽しみなんだ。としよ子は、せんこう花火がすきなんだって。ぼくは、打ち上げ花火がすき!



編集 さいたま市図書館  
「としよ丸しんぶん」編集委員会  
発行 さいたま市立中央図書館  
浦和区東高砂町11-1  
コムナーレ8階  
電話 048-871-2100

<http://www.lib.city.saitama.jp/>

けいたいでんわよう  
<http://www.lib.city.saitama.jp/m/>

花火はかせになりたいキミに

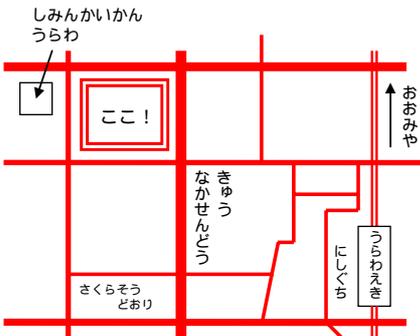
『はなびのはなし』  
たかとししょうはち作  
福音館書店

『知って楽しい花火のえほん』  
冴木一馬作 あすなる書房

だれもが、花火を楽しめるようになったのは、江戸時代からなんだ。ぼくらが見ているような、いろいろな色の花火はなかったし、45分に1発くらいしか上げられなかったそうだけど、夏のさいこうの楽しみだったそうだよ!

けんがくにつき (一)

うらわ美術館に行ったよ!  
うらわ美術館は、2000年春に開館したんだ。「地域にゆかりのある美術家の作品」や「アートとしての本」を集めた美術館。  
「アートとしての本」ってなんだろう? たとえば、みんなも知っているピカソは、美しい絵をさし絵として、本にえがいたんだけど、その絵は、はん画で1枚ずつ、すりこまれてるんだって。そういつた本を集めていて、日本ではめずらしい美術館なんだ。



けんちょうどおり

うらわ美術館  
さいたま市浦和区仲町2-5-1  
浦和センチュリーシティ3F  
048-827-3215  
<http://www.uam.orawa.saitama.jp/>  
お休みは月曜日、7月21日(火)



さくねん 昨年「ぐりとぐらとなかまたち展」でのおはなし会

8月30日(日)まで「プラテイスラヴァ 世界絵本原画展 歴代グランプリ作家とその仕事」というてらん会をしているよ。  
夏休みの間、毎週火曜と金曜(午後1時30分~2時)にギャラリーDで、図書館のおはなし会があるよ。ぼくも楽しみ! みんなも行ってみてね。

『じごくのそうべえ』

田島征彦 作 童心社



かるわざしのそうべえは、つなわたりをしているときに、足をすべらせ じごくへまっさかさま。そこで そうべえを まっていたものは、さんずの川に、えんま大王やたくさんのおにたち、それにねっとうのかまやはりの山。ところが、それらをものともせず、じごくのそうべえは...

『紳士とオバケ氏』

たかどのほうこ 作 飯野和好 絵 フレーベル館



マジノ・マジヒコ氏という それはそれはまじめな紳士が ひとりで古い家にくらしていた。ある夜、マジヒコ氏は、この家に住む家オバケのオバケ氏とばったり。仲良くなったふたりは、いっしょにチェスをしたり、映画をみたり、オバケ氏がマジヒコ氏の代わりに会社に行ったり...。マジヒコ氏とオバケ氏のふしぎでおもしろい話。

『なんでもただ会社』

ニコラ・ドイルシング 作 末松氷海子 訳 日本標準



ティリーが、いたずらで電話をかけていたら、注文したものは なんでも ただで 届けてくれるという会社につながった。ただ、一つだけ、規則がある。それは最後に「ン」のつくものは、ぜったいに注文してはいけないということ。ところが次々と注文しているうちに、ついうっかり「ン」のつくものを言ってしまった。

『おとうさんがいっぱい』

三田村信行 作 佐々木マキ 絵 理論社



ある日、トシオの家に、見た目も 声も おとうさんとまったく同じ人間が現れて、おとうさんが3人になってしまった。それぞれ自分こそが本物だと言い張り、トシオにも見分けがつかない。そのころ、全国のあちこちの家でも同じようなさわぎが起こっていて...。「おとうさんがいっぱい」のほか4つの話が入っています。

としょ丸としかん

こわい本・ふしぎな本

あつい夏がやってきたね。この夏をあつさを ふきとばすのは、なんと言っても こわい話！ せすじもこおる(?)こわい本、こんなことあるの?という ふしぎな本をしょうかいするよ。夏休みに、読んでみてね!



★ が ぶえると だんだん むずかしくなるけど チャレンジしてみてね!

『雪女 夏の日の夢』

ラフカディオ・ハーン 作 脇明子 訳 岩波書店



ラフカディオ・ハーンは、明治時代に日本を訪れた西洋人。彼は日本が気に入って、そのまま日本に住んで「小泉八雲」と名乗りました。ハーンは日本の不思議な言い伝えをもとに、たくさんの物語を書きました。この本には、それらの短編がつまっています。そのほか、ハーンが日本で感じたことをつづったエッセイもあります。

『ねらわれた星 星新一ショートショートセレクション1』

星新一 作 和田誠 絵 理論社

『鏡 ゴーストストーリーズ』

スーザン・クーパーほか 作 角野栄子 共訳 偕成社



『おいしいのぼうけん』

ふるたたるひ 作 たばたせいいち 絵 童心社

さくらほいくえんには、こわいものが ふたつ あります。ひとつは おいしいで、もうひとつは、ねずみばあさんです。

さとしと あきは せんせいに しかられ、ほいくえんのおいしいに いれられてしまいます。だんだん こわくなってきた ふたりのもとに、おそろしい ねずみばあさんが なんぜんびきもの ねずみをつれて、あらわれて...

『ひとりでいらっしやい - 七つの怪談 -』

斎藤洋 作 奥村幸子 絵 偕成社

ぼくは怪談が好きな小学生。ある日、兄貴の忘れ物をとどけに、夏休みの大学にきた。お昼を食べるためにひとりで地下の食堂に向かうと、なぜかエレベーターが、4階に上がってとまってしまった。そして、先生と大学生の集まりにまよいこんでしまった。それは『怪談クラブ』で、幽霊やおばけの話をする会なんだそうだ。

『日本の妖怪百科 全5巻』

岩井宏実 監修 河出書房新社



妖怪があらわれる場所は決まっています、山、海、川、道(里)、屋敷の五つに分けられる。妖怪はいつでもあらわれるが、特によく姿をあらわすのは、秋や冬。このシリーズでは、あらわれる場所ごとに約110もの妖怪の特徴や性格が、絵と文でとても詳しく紹介されている。

『視覚ミステリーえほん』

ウォルター・ウィック 作 林田康一 訳 あすなる書房



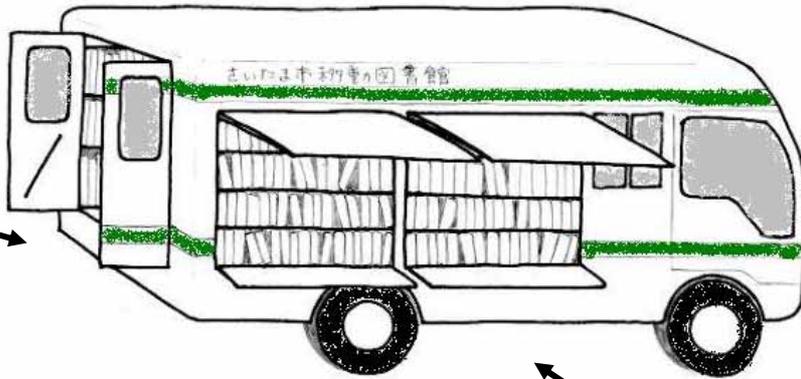
この本には、たくさんの写真があります。それらの写真をよく見ると、とても不思議なものだと気づきます。へこんでいたはずのものが もりあがって見えたり、階段が実際にはありえないものだったり。これらはすべて、「錯覚」によるもの。「視覚ミステリー」の世界を、たっぷり味わっててください。

さいたま市には、『移動図書館』という車の図書館があります。



「移動図書館」は、近くに図書館のない人たちのために、やく3,500冊の本をつんで、2週間に1回、きまった場所をまわって本のかしだしなどをしている車だよ。走る図書館なんだ。名前は「宝くじ号」っていうんだ。今は、こうえんや公民館など24箇所をまわっているよ。

車の中に、絵本や物語など、みんなが読む本があります。



としま丸しんぶん  
移動図書館のまき

移動図書館でも図書館と同じように、10点までかりることができます。リクエスト(予約)もできるし、ほかの図書館でかりた本もかえせるのよ。  
雨の日はお休みになります。



外側におとなの人が読む本があります。

今回から、「としま丸しんぶん」は、今までとかわって、あたらしくなりました。おもしろい本や、図書館のひみつなど、もっともっとおしらせしていくね。おたのしみに！



このコーナーは、としま丸しんぶんをよんでるきみと、としま丸をむすぶコーナーです。としま丸へのてがみは、としま丸ポストへいれてね！



な？ またチャレンジしてね！  
「雨の日」と書いてくれた人もいたけど… 半分正解かな？  
正解した人は…  
翔子さん、けんくん、みささん、まおさん、ななさん、ひなせさん、YOUさん、たくみくん、ちひろさん、あおいさん…でした。おめでとー！「雨の日」と書いてくれた人もいたけど… 半分正解かな？



こたえは、「くもりや雨の日」  
正解した人は…  
翔子さん、けんくん、みささん、まおさん、ななさん、ひなせさん、YOUさん、たくみくん、ちひろさん、あおいさん…でした。おめでとー！「雨の日」と書いてくれた人もいたけど… 半分正解かな？

おてがみひろば